

第六十八師団

師団長 陸軍中將 堤 三樹男

一 行動概要

歩兵第五十七旅団 (長 少將志摩源吉)

(61 62 63 64 大隊)

湘桂作戦 (1941.1.19 - 1.22) 1941 旅団主力は武昌南側地区に集結

作戦を準備す 旅団は志摩支隊となり五月二十七日新橋河を

渡河し衡陽に向い直進す 独歩六連大隊は松山支隊となり

衡陽飛行場攻畧に向い 作戦間兵站補給意の如くなり

特に衡陽攻畧戦に於ては彈薬の欠乏の程に達し攻撃数回に

及の部隊は主食の欠乏を補ふ為 自ら稻刈 救摺りを実施する

の止まない状況であった

1941 衡陽攻畧戦中旅団長志摩少將戦死し其の他死傷甚

大である

8 8 衡陽攻畧しその後同周辺地区警備に任す

旅団司令部 (衡陽南方)

独歩六二大隊 (衡山)

独歩六三大隊 (洪橋)

独歩六四大隊 (衡陽東南方)

独歩六四大隊 (常寧)

南部粵漢打通作戦 (20/14 ~ 23/27) 旅団長少将黒瀬平一

19/12 旅団は本作戦の爲 黒部隊を編成 第二十軍直轄となり 1月

十九日カ四〇師団 (官部隊) に策應 御縣に向い進攻す

旅団は粵漢線に沿ふ地区を南下 第九十九軍及暫編第三軍と

撃碎しつゝ 一挙に御縣を攻畧 続いて東方に退却中の九十九

軍を猛追して東江に圧迫 是を夷滅すると共に三都市炭

鉱及同支線を占領 尔後 御縣附近 広東省境に至る間及

三都市周りを警備確保す

20/4 独混八七旅団編成に伴い 一部を是に転属すると共に同部隊に

警備任務を委譲し 安仁附近に転進した

尔後左記地点を扼し 軍の反転作戦掩護の爲 陣地構築に任じつゝ

終戦を迎えた

旅団司令部 (来陽) 独歩六一大隊 (攸果) 独歩六三大隊 (常寧)

独歩六三大隊 (来陽) 独歩六四大隊 (安仁)  
漸く栄養失調患者多發し特ニ補充員にして部隊追及中罹患  
するものが多く死亡者亦多数に昇つた

2 歩兵第五十八旅団 (長 陸軍少将 関根久太郎)

(65/115/116/117 大隊)

湘桂作戦 (195/11/1912) 武昌 | 桃林 | 昭陵市 | 朱亭 |

泉溪市 | 衡陽南方三杆 (196/27) | 衡陽攻畧 (198/8)

全縣作戦 (198/30 | 199/20)

零陵縣零陵警備 (199/20 | )

湘西作戦 (203/1 | 206/10) 独歩二二五大隊は隊長以下大々玉碎

207/27 旅団長 関根少将戦死 旅団長 加藤大佐  
208/30 衡陽へ移駐

二才六十八師団野戦病院の状況

病院長 軍医少佐

谷野 謙

森田 清司 (2031以降)

194 武昌出發 師団主力の行動に膚接して 195 27 新橋河を渡河  
 附近に地雷敷設しあり約三十名(半数死亡)の爆創患者を出す  
 長沙附近より湘江を抜んで二隊に分かれ所在の患者を收容しつ  
 、主力は衡陽南側地区 黄茶嶺附近に進出野戦を開設一部  
 を以て對岸掾皮塘に患者療養所(長 永次繁治大尉)を  
 開設 衡陽攻畧戦間の患者を收容した  
 黄茶嶺野戦病院開設當時は敵才五軍の敗殘兵出沒し敵  
 を腹背に受けての病院業務で病院内へ山砲彈飛来する状  
 況であった 七月に入り空襲劇烈となり患者後送に大なる  
 支障を来した

198 衡陽攻畧後 病院の一部を以て才五十八旅団の全果作戦に協  
 力零陵に患者療養所(199 201 208 16 長 高塚滋大尉) 又  
 歩兵才五十七旅団の南部粵漢打通作戦の爲一部を以て協力せしめ協

皮塘 御縣に患者療養所(20/22-26)を長 永漢繁治大尉)を開設  
作戦部隊の患者收療に任せしむ

攸果 安仁 常寧 附近警備間才一班を以て安仁果相藤亭に  
患者療養所(20/6-20/8)を開設した

黄茶嶺野戦病院の状況

(19/6/28-終戦) 衡陽市街の南方約三軒湘江左岸 中国才土軍長の  
住宅と煙草工場を接收して病棟に充當されたので病室は充分  
余裕があり 防空手術室まで準備された程で 医療品の欠乏を  
除くは外科患者の收容治療に完璧を期し得たが 外科は粗  
末ながらス工場と別に民家と業養失調患者病棟に充當され  
たので改善に苦心した 給養士配属歩兵部隊をして物資の蒐  
集農園の経営に任せしめり等一般に比して稍良好であった  
病院の位置又病棟配置等別紙要図の通り  
患者の状況

激戦四。日ト及んだ 衡陽攻畧戦間戦傷患者最ト多く約一〇〇〇

以上で、發着係は八月五日夜から七日朝迄机を嵩小する事が出来な  
かった。状況で戦傷死者約四〇〇に昇った

次いで疲勞と給養不良に基くマラリヤ回歸熱赤痢 戦軍栄養  
失調症等続發し開設以来の收容患者は四〇〇に及び死亡亦  
三〇〇を降らすと云ふ 戦軍栄養失調患者は氣候風土に馴れな  
い補充要員ト多く 死亡率九〇%の高率であつた

衡陽陷落當時約五〇〇の患者を收容せる傳染病棟の如きは  
一日五十名の死亡者を出した事がある

内科患者に対する治療は藥物不足の爲 充分とは言へ得なかつ  
たが職員は最善の努力を傾倒し藥草を採集したりリンゲル  
不足を補ふ爲 食塩水注射薬を調剤したりした

黄峯嶺南方二軒の地点に開設のコレラ病棟は收容約一三〇名椽  
皮塘ニ〇名で其の半数は死亡した

死亡者は手指を切つて遺骨をとり屍体は病院高地の墓地に埋  
葬し 遺骨は關係書類と共に原所属隊へ護送した

他兵團からの收容患者は 弛關係平病(独歩)約一〇〇名(19/10以降)

例患者は纏ったものはなく一。一。二。名位宛輸入した例三。三。名位  
衡陽陷落前約一〇〇名位宛五。六回主として戦第軍養失調患者  
を民船により所要の軍医及衛生兵を附し湘江を下航長沙方  
面へ又第百十六患者輸送隊により衡山へ後送した

本格的輸送は1948下旬以降実施せられ主として衡陽西北方三軒  
地点揚家均野戦予備病院より四班へ退院見込みのもの約五〇〇名  
を担送、同病院にコレラ蔓延するに及び三板橋、衡山より三八兵  
站病院へ、二。三。患者輸送班及患者輸送カ八。十。隊により後送された  
輸送は大部分が夜間実施されたが途中事故はなかった

戦斗劇烈を極めた時期も第一線との距離は約二軒位しかなかったの  
で第一線より附添兵をつけ又は後方より收容隊を差遣收容し、  
七たので途中の事故はなかった

六月二十日以前の患者は椽皮塘患療へ前送後黄茶嶺木院へ後  
送された

零陵患者療養所に於ける患者は大部分が靴傷湿疹等平癒患者



者で約三十名位重症及後送を要するものあり、対岸の第一三兵站病院へ他は湘西作戦開始直前軍公路を黃茶嶺本隊へ後送した。粵漢打通作戦参加の病院一部は20/5/105/24間、祁縣驛前に臨時野戦病院を開設、前線よりの後送患者を収容、19/5/25/105/24間、耒陽へ19/5/24期作戦の爲、其の全部を耒陽野戦予備病院へ三三班へ後送した。本作戦間の戦傷死者約500、入院治療間及後送途次事故を起した事例なく、死亡者の処理書類の調製等確實に実施された。

### 参考

六月乃至八月降雨の爲、平病患者多發した。又衡陽攻畧直後、氣の緩みから發病したものが多かった。

結養不良等に基く逃亡隊者もあつたが、病氣の爲、部隊の足手纏となるのを苦慮し、自決したものもある。

2部隊追及者は新市―長沙間は徒歩行軍、多少自動車を利用したが、道路の関係（不良）及空襲を顧慮し、専ら夜間行軍であるので、約十日を要し、長沙―易俗河―衡陽間は比較的、道路良



好であるので約十日を要した

師団の残留隊は武昌(妹尾軍曹)石灰窯(少隊梅園准尉)九江にあつて退院者は夫、最寄残留隊に連絡するのが例であつた

3 衡陽入院長沙へ後送され治療退院部隊追及した独歩一七六大隊の新谷健三等兵は追及中病氣再發したので民家に入った処日本兵二名病臥して居るのを目撃したが所屬部隊氏名不詳であるが病状より判断し後死亡したと判断される

同時退院部隊追及者三名中衡陽へ到着したものの僅に一名であつた。4/19、新市入院約十日の治療を受けたが完全治療を待たず退院部隊追及の途次新市南方約一里の地点に於て二名の屍体を見た。着衣がないので部隊名氏名等不詳であるが戦斗帽編上靴を着してゐるので日本兵であることは確実である。

又長沙附近で日本兵六名が地雷にかかり飛んでしまった事がある。完全治療に至らず退院部隊追及中この種事故により不明となつたものが相当数あると思はれる(第一七六隊次地奈良太郎供)

不野戦病院の死亡者名簿はあるが入院患者名簿病床日誌等は長  
沙に於て焼却した

八月下旬の後送患者中に不明者を出した可能性が多い

衡陽一衡山間兵站病院にコレラ患者多発し相当混乱を呈し  
た事がある後方病院に於ては病床日誌と転入患者の照合は  
は極めて困難であり混乱時死亡者の氏名の判然しないこと  
が事はあり得ることである

成果

死亡判明 (三名)

部隊	本籍地	官等	氏名	資料
5/8165	[Redacted]	現歩一	山中一	本留守名簿に記載なく 首名簿にあり(二六六 〇二三)武昌陸病下於て 戦病死
65165	[Redacted]	歩二	村田俊夫	留守名簿記載なし 191030場家切野予病 下於て戦病死
117165	[Redacted]	歩二	北浦義夫	〇〇〇〇江甯省都昌保 南山附近に於てマラリヤ 熱発に基き第陸隊北七旅定

4 認定豫定(四名)

116 lbs	116 lbs	515 lbs	514 lbs
固歩二	補歩二	現歩長	現歩一
大邊嘉男	奥田幸作	土屋進	中山末春
19 9/10 初陽果高子に 於て高隊逃亡	19 9/7 初陽果に於て 宿營中高隊逃亡	20 8/28 未陽果浪家湾附 近に於て高隊逃亡	21 11/6 江西省都昌果 南山北麓隊逃亡

3 現復処理(四名)

516 lbs	61 lbs	64 lbs	116 lbs
現歩一	補歩一	現歩一	補歩長
北井兼三郎	門岡幸雄	武藤金作	酒井精三
21 6/24 佐吉保上陸 復員	19 12/21 清州後送 20 5/15 岳 陸江波合院に於り 20 7/23 京城陸隊練兵場 臨時合院に於て高隊通信 隊南師管已歩一補充隊	24 12/5 復員	19 4/15 梱包監視員に して九江に發遣不明 21 6/29 復員

2 飯選(四名)

117.0s	514.0s	115.0s	"	"	"	65.0s	116.0s	丁	"	"	61.0s	115.0s	515.0s	61.0s	部 隊
木村修	池浦繁行	矢上久雄	根来亥之助	松岡太郎	門脇薫	前田博	高木政一	小菅進二	三浦輝司	岡村繁一	山田孝三	野田光雄	川林徳一	西野喜一郎	氏名
"	蠶	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	大夜	縣
62.0s	61.0s	51.0s	514.0s	"	"	"	64.0s	62.0s	51.0s	115.0s	64.0s	丁	51.0s	11.0s	部 隊
波勢春夫	竹岡国光	井上正義	吉川傳一	渡辺英雄	水野保雄	中野健一	天満屋律之助	辻本勝治	清水多海司	阪本勝	宮本照明	野田順一	林政太郎	岩本璋一	氏名
"	"	崎	"	"	"	"	栗	奈良	三	"	"	"	"	蠶	縣
		61.0s	65.0s	"	117.0s	"	515.0s	518.0s	63.0s	515.0s	62.0s	P	"	61.0s	部 隊
		岡田又三	山口寅夫	川本三郎	寺前良一	津田那雄	樽井利一	中村好雄	安達繁雄	岸柳兵助	村上梧治	下園富夫	山形 瑞	叔木俊夫	氏名
		蠶	大夜	"	蠶	大夜	蠶	萬根	山形	宮城	青森	養	"	福園	縣